

高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設（仮称）
文化庁エリア展示方針

令和8年3月

文化庁

目次

I	はじめに	1
II	高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設（仮称）展示について	
1	基本的な考え方（文化庁エリア全体）	2
2	展示資料、手法について	3
3	展示空間構成	3
4	展示の形態	
(1)	常設展示	4
(2)	企画展示コーナー	4
(3)	古墳壁画・石室石材保存管理室（観覧区画）	5
5	展示解説について	6
III	常設展示室	
1	施設概要	7
2	展示のねらい	7
3	コンテンツ構成とストーリー	8
4	展示展開例	11
IV	その他	
1	観覧料	12
2	運営への民間事業者の参画	12
V	高松塚古墳関連資料について	13

1 はじめに

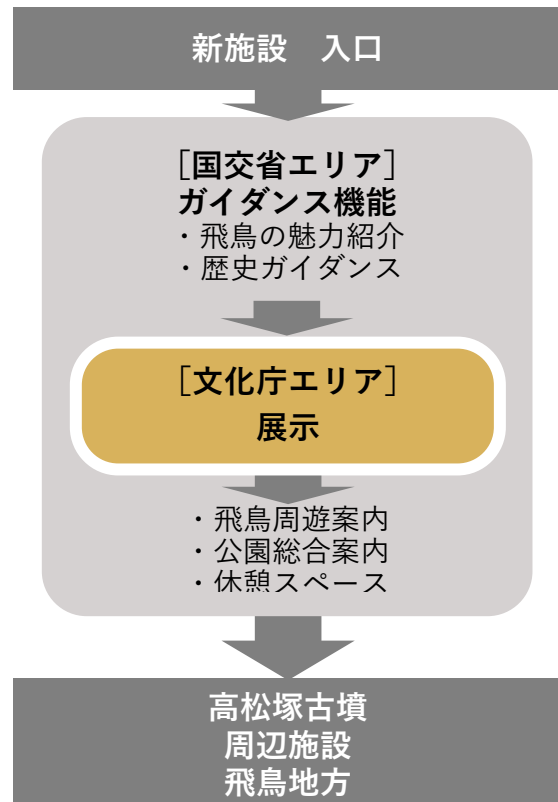
高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設（仮称、以下「新施設」）は、10年におよぶ修理が完了した国宝高松塚古墳壁画を保存管理しながら、広く公開活用を行い、また、飛鳥地方のゲートウェイ施設として、国土交通省（以下、国営飛鳥歴史公園）と一体的整備を行うものである。これまでの「古墳壁画の保存活用に関する検討会」において、新施設に対して、古墳壁画・石室石材の調査研究・保存・展示・メンテナンスの機能を一体とすることが求められている。

展示については、来館者が国宝高松塚古墳壁画・石室石材の価値や魅力と保存の意義とともに飛鳥地方の歴史や風土・特別史跡の価値・国際交流の歴史などについてより深く理解できる展示が求められる。また、周辺施設との役割分担や展示内容の差別化、国営飛鳥歴史公園館のガイダンス展示から文化庁エリアの常設展示、古墳壁画・石室石材保存管理室（観覧区画）へと至る一体的な流れの創出など、来館者に不自由なく適切な情報と知見・体感を提供する。さらに多様なニーズに応じて質の高い付加価値な機会や鑑賞体験を実現する必要がある。

新施設では、文化財の活用や民間事業者の参画の導入等、文化施設のロールモデルとなるべく、文化庁エリアの展示に関しては一部（ミュージアムショップ等）を除き観覧料を設定する方向で検討を進める。

本方針は、文化庁エリアの展示に関して、展示手法と形態、コンテンツ構成とストーリー等を整理した。

新施設全体の展示構成（案）



II 高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設（仮称）展示について

1 基本的な考え方（文化庁エリア全体）

現在は、各所で高松塚古墳関連資料が保管・展示されている。新施設では、高松塚古墳と古墳壁画をメインテーマとし、壁画の実物展示を含む体系的な展示を行う。来館者が高松塚古墳の魅力を感じ様々な知識が得られる展示を体験したうえで、国宝高松塚古墳壁画を鑑賞することにより、高松塚古墳及び古墳壁画の全容について理解を深められる展示を実現する。

また、新施設の周辺には、高松塚壁画館、飛鳥資料館、キトラ古墳壁画体験館四神の館があり、特に高松塚壁画館、飛鳥資料館では、高松塚古墳及び壁画に関する展示を行っている。新施設では、それら各館との連携を図り借用資料による展示を行うことで、国宝の壁画・石室石材をより深く理解できるよう、体系的な展示を行う。さらに、高松塚古墳及び壁画の整備・保存管理・修理を行ってきた歴史と未来に向けた挑戦についても、展示コンテンツとして展開する。

※高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設（仮称）基本計画

【基本方針】

- 国宝高松塚古墳壁画・石室石材の価値や魅力、保存の意義を、飛鳥地方の歴史や風土、特別史跡の価値、国際交流の歴史などを踏まえながら広く発信する。
- 飛鳥地方の導入拠点として、国宝高松塚古墳壁画・石室石材をはじめとする文化的遺産についてより深く理解するため、必要な情報を提供する。
- 国営飛鳥歴史公園館との一体的な整備によって、古代国家の形成過程を示す飛鳥地方に残る歴史、風土への理解促進と体感に寄与する。

【周辺施設との連携により展開するテーマ】

●高松塚古墳・古墳壁画をより深く知る

[常設展示] で高松塚古墳・古墳壁画の価値を知り、[古墳壁画・石室石材の展示] により、本物の古墳壁画や石室石材を鑑賞して魅力に触れる。

その後、[高松塚古墳][高松塚壁画館] へ誘導し、高松塚古墳を立体的かつ多視点から体感する。さらに、[周辺施設] へ誘導し、実物資料等の鑑賞により理解を深める。

●古墳や古墳壁画に関する多様なテーマを掘り下げる

[企画展示] により、高松塚古墳・古墳壁画に関する調査研究成果や国内外の古墳・古墳壁画に関するテーマをより深く理解する。

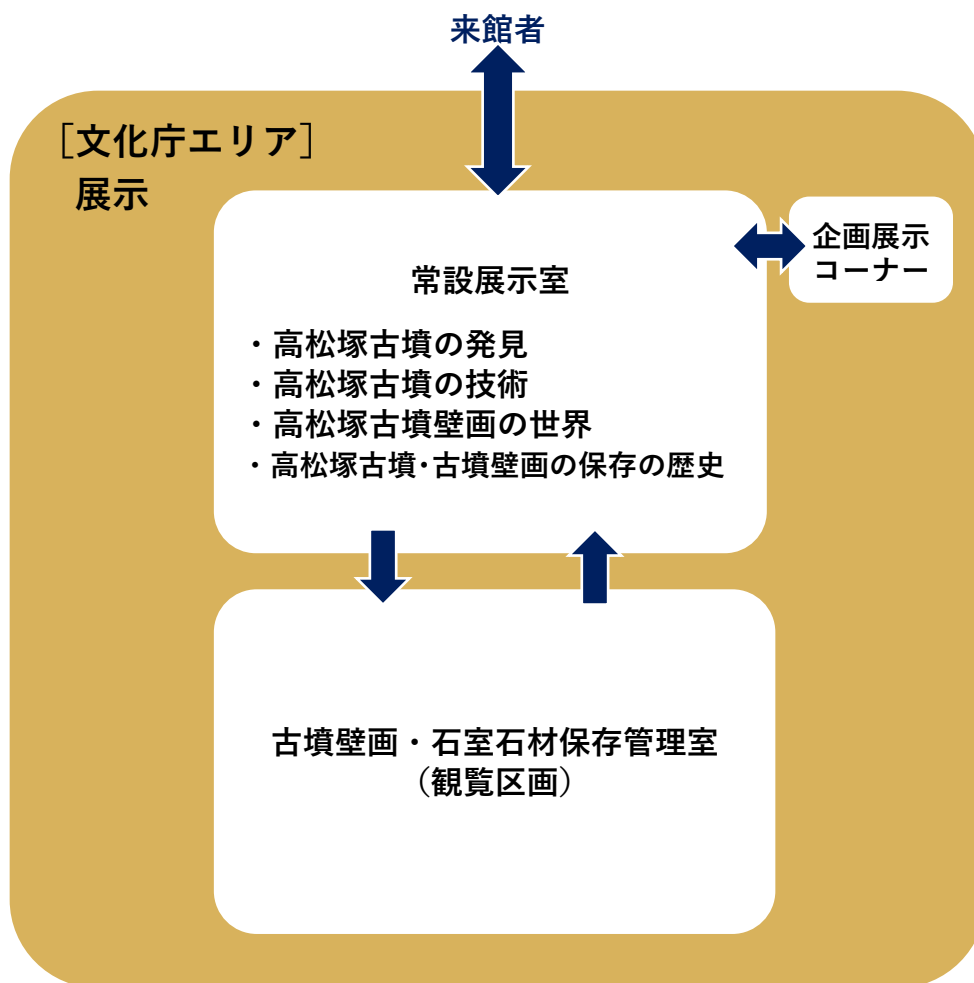
2 展示資料、手法について

高松塚古墳出土資料、高松塚古墳発掘調査時の収集資料、高松塚古墳壁画に関する調査研究データ・関連資料、壁画発見から現在に至るストーリーやエピソード（写真、映像、新聞記事・ニュース映像、関係者の証言 等）を収集し、展示する。実物資料の他に、レプリカやグラフィック等を用いる。

※「V 主な展示候補となる高松塚古墳関連資料リスト」参照

3 展示空間構成

新施設では、古墳壁画・石室石材の実物を、詳細な解説や発掘調査で得られた資料等とともに観覧することにより、古墳壁画・石室石材への理解や体感がより一層深まるよう、常設展示室と古墳壁画・石室石材保存管理室を連続した配置とするとともに、企画展示コーナーやミュージアムショップも併設する。文化庁エリアの入退口に必要な設備の導入を図るなど、ゾーニングを行う。



4 展示の形態

(1) 常設展示

【グラフィック、映像、立体造形やレプリカ等で展示を構成し、高松塚古墳や古墳壁画を詳しく紹介する区画】

高松塚古墳や古墳壁画について、来館者が多様な視点から楽しみながら理解を深め、その価値や魅力を感じることによって、実物の壁画を鑑賞する助けとなるような展示とする。

さらに、来館者の多様な知識・関心や要求に応え、常設展示でも満足感を得られるように工夫した展示及び展示内容を展開する。

[留意点]

- 1 展示内容については、学術的な知見を踏まえて分かりやすいものとする。また、最新の研究成果を反映しやすい展示とする。
- 2 文化財保存と文化財保護行政について理解を深められるように意識する。
- 3 国営飛鳥歴史公園エリアの展示内容との連携を図り、ストーリーやデザインの連続性を確保するとともに内容重複を避ける。
- 4 「埋葬空間」としての尊厳を有する空間を実現するとともに、来館者が実際に石室内の空間を体感できるような展示を導入する。
- 5 高松塚古墳に関わる主要資料については、可能な限り実物を展示する。展示が困難な資料についてはレプリカを用いて適宜内容を補完する。
- 6 原則として、厳密な温湿度管理など保存環境に十分な配慮が必要な資料の展示は行わない。
- 7 発掘調査時の採取資料やその他の収蔵資料を有効に活用した展示とする。
- 8 映像や音声、デジタルコンテンツ等を活かして、分かりやすい展示とする。
- 9 文化庁が整備を検討している古墳壁画データベースと連携した展示を行う。
- 10 車いす利用者や高齢の方にも負荷のないよう、十分な通路幅を確保するとともに、できる限り段差の解消などの整備を行う。また、子ども、視覚や聴覚など障がいのある方等に配慮した、誰もが見学しやすい展示を目指し、展示什器の配置や高さを設定する。

(2) 企画展示コーナー

【時宜に応じて、特定のテーマに沿った期間限定の展示等を行う区画】

高松塚古墳・古墳壁画・国内外の古墳、飛鳥地方・歴史等に関するテーマにもとづく企画展示のほか、イベント、物販等にも活用する。ただし、イベント、物販等の開催にあたっては文化財 IPM に十分配慮して実施する。

[留意点]

- 1 高松塚古墳・古墳壁画・国内外の古墳に関するテーマや常設展示の一部を取り上げたコラム的な企画展や研究成果を活かした企画展を開催するほか、イベント、物販等にも活用する。
- 2 国交省エリアのガイダンス機能での展示や文化庁エリアの常設展示を補完する展示内容と新たなる研究成果等に応じたトピックや時事的な企画を組み合わせる「企画展示のラインナップ」を開館前から企画しておく。
- 3 常設展示開催期間中に展示替えを行うため、閉鎖できるよう扉や可動壁等を設置する。
- 4 展示資料や展示什器、イベント機材やミュージアムショップの商品等の搬出入動線を確保した設計とする。

(3) 古墳壁画・石室石材保存管理室（観覧区画）

【保存管理区画に置かれた古墳壁画・石室石材（壁画が描かれている9石を含む16石）をガラス越しで観覧する区画】

古墳壁画・石室石材保存管理室は、保存管理するための「保存管理区画」と、保存管理区画をガラス越しに観覧する「観覧区画」とで構成されるものとする。それぞれ形状が異なる石材を一定の高さで誰もが観覧しやすいように配置し、観覧区画では、奥行きのある壁画面を考慮した床高とする。

古墳壁画・石室石材保存管理室では展示ケースも活用し、古墳壁画・石室石材のほか、厳密な温湿度管理等の展示環境を整える必要がある実物資料も展示する。

[留意点]

- 1 古墳壁画の拡大図など、古墳壁画の鑑賞を補助するための工夫を行う。
- 2 観覧区画で展示を行う場合には、照度をできるだけ低減するとともに、観覧時以外の照射時間を減らすなど、古墳壁画へ影響を与えないよう配慮する。また、観覧区画での長時間にわたる滞留を避けるよう留意する。
- 3 観覧区画への入場にあたっては、必要な設備の導入を図る。

5 展示解説について

展示解説は国内外の多様な来館者が高松塚古墳や古墳壁画について正しく学び、より深く理解できるよう展示を補完する。

- 1 ユニバーサルデザインに配慮し、触れる展示による説明や音声・点字等による解説、車いすに対応した適切な高さや設置位置等を工夫する。
- 2 テーマに関係する様々な展示解説を用意するとともに、展示資料にキャプションを付して解説を行う。一般向けの解説の他に、低い位置に子供向けの解説を配置するなどの対応を検討する。
- 3 グラフィックパネルによる展示解説に加え、デジタルサイネージや映像等を交えてより詳しい情報や分かりやすい解説を提供できるよう、工夫する。
- 4 理解を促進するツールとして、多言語対応を行う。
- 5 展示について紹介するオリエンテーションや展示を解説するギャラリートークやナイトミュージアム等を行い、展示への興味や理解の促進を図る。

III 常設展示室

1 施設概要

面積	445 m ² (予定)
天井高	4.5m (予定)
床荷重	5.0kN/m ²
文化財 IPM	管理ゾーン [活用ゾーン]
温湿度設定	夏季 26℃・50%、冬季 22℃・40%
照明	ベース照明と展示用照明の2種類を、展示工事で対応 (予定)
防火・消火	<ul style="list-style-type: none">・自動火災報知器・屋内消火栓・消火器
その他	<ul style="list-style-type: none">・天井は、建築工事はスケルトン、濃炭色塗装仕上 (予定)・壁面仕上は、建築工事は基準内装までとし、それ以降は展示工事で対応 (予定)・床仕上は、建築工事は防塵塗装までとし、それ以降は展示工事で対応 (予定)

2 展示のねらい

- 1 実物資料（古墳壁画・石室石材）をより深く鑑賞するために必要な情報を提供する
- 2 展示を見た後に、高松塚古墳・周辺施設・飛鳥地方を訪れたくなる展示とする
- 3 多様な世代や知識を有する来館者を想定し、分かりやすく伝える

3 コンテンツ構成とストーリー

展示室内でのコンテンツの順序やレイアウトは、建築プランに合わせて、展示のねらいを最大限に発揮できるよう、また、来館者に対して展示全体で連続した観覧体験を提供するよう、工夫する。

以下のコンテンツを、コンテンツ3、コンテンツ2の順で重きをおいた展示とする。

コンテンツ1 高松塚古墳の発見

ねらい 日本で初めて壁画古墳が発見され、大陸では存在するものの日本には存在しないと思われていた壁画古墳が日本にも存在していたことが明らかとなって人々に衝撃を与えたことを、当時の写真や映像等のさまざまなメディアを交えて、関係者の思いや当時の社会の雰囲気を感じられるような展示とする。さらに、歴史年表等の活用や高松塚古墳の位置関係を示すことで、来館者自身が被葬者の特定につながるストーリーを紡げるような展示とする。

ストーリー 被葬者、築造後の歴史

江戸時代に文武天皇陵と考えられた時期もあったが、現在も被葬者の特定には至っていない。「高松塚」の由来は、墳頂に1本の松が生えていたことによると伝えられている。また鎌倉時代に盗掘を受けており、石室の南壁石・壁画・資料には、生々しく盗掘を物語る痕跡がある。

発見のインパクト

30cm四方の切石の発見をきっかけに昭和47年3月から開始された発掘調査により、壁画が発見され、テレビや新聞報道により広く発信され大きな話題となった。これをきっかけに、考古学ブームが巻き起こり、明日香村に大勢の観光客が訪れるとともに、飛鳥保存の機運がさらに上昇するきっかけとなった。

コンテンツ2 高松塚古墳の技術

ねらい 墳丘の形や位置、大きさとともに、石室の形や大きさ、壁画の有無など、東アジアや日本国内の古墳との比較や変遷により、歴史の中での高松塚古墳の位置づけを知る。さらに、発掘調査や調査研究によって明らかになった古墳の築造方法や石室の構造等を知ることで、高松塚古墳に関わったいにしえの人々の存在や手作業を感じる。石室の構造、古墳築造や石材加工の技術について、実物資料と原寸大模型・レ

プリカ、映像等を組み合わせて、来館者が体感的に学べるような展示とする。

ストーリー 墳丘及び石室の形状・大きさ

墳丘は、高さ 7.2m 以上、直径は上段 17.7m、下段 23m の二段築成の円墳で、古い時代の古墳と比べ小型化しており、墳丘を築く古墳としては最終末のものである。石室は 16 石の二上山凝灰岩で構成され、内部は長さ 264.8cm×幅 103.2cm×高さ 113.4cm の大きさである。

高度な土木・石工技術、地震痕跡

丘陵の斜面に平らな基礎を築造。二上山から切り出した 16 石の凝灰岩を組み上げ、石室を構築した。石室の周囲を版築により埋め固めて第一次墳丘を完成させ、南側に墓道を掘った後に、南壁面を開けて壁画を描いて、納棺した。その後、石室を閉鎖し墓道を埋め、第二次墳丘を構築し、古墳が完成した。版築には度重なる大地震によるひび割れが生じており、地震被害の甚大さを物語るが、高松塚古墳は約 1300 年間、崩落することなくその姿をとどめてきた。

木棺、副葬品

古墳の石室には黒漆と朱で塗られ装飾用の金具で飾られた木棺が置かれていた。盗掘で副葬品の多くは失われているが、刀の一部や鏡等が出土しており、高松塚古墳を特徴づける重要な資料となっている。

コンテンツ 3 高松塚古墳壁画の世界

ねらい

東アジアや日本国内の古墳に描かれた壁画と比較を行い、高松塚古墳壁画のレプリカや映像等を使って壁画を詳細に鑑賞するとともに、壁画の描画方法や画題から読み取れる東アジアからの文化的影響、高松塚古墳壁画の有する繊細さから読み取れる日本文化の独自性も交えて、高松塚古墳壁画の魅力を知る。多様な視点からの多様な表現手法を用いて、古墳壁画の魅力を楽しみながら体感する展示とする。

ストーリー 装束、シーン設定

女子／男子群像、四神、日月像の図像や、それらが表わす空間表現等について、国内外の古墳壁画との比較から、東アジアとの文化交流の歴史、高松塚古墳壁画ならではの繊細なタッチ、壁画に込められた当時の人々の思いなどを示す。

顔料、道具

壁画は、水銀朱（辰砂）、緑青（孔雀石）、群青（藍銅鉱）などの顔料で描かれた。また、星や日月の表現には、金や銀が用いられている。材料や表現から推測される、壁画が描かれた状況や手法、手順等を示す。

コンテンツ4 高松塚古墳・古墳壁画の保存の歴史

ねらい 古墳を守ってきた地域の人々の姿、古墳壁画の発見から今日までの保存の取組を通して、古墳壁画が多くの人々に支えられてきたことを示す。さらに、古墳壁画の保存を通して得られた保存科学の知見や最新の研究成果を示す。

ストーリー 現地保存の困難さと石室解体

昭和48年に古墳全体を特別史跡に指定し、現地保存方針を決定。昭和49年に壁画を国宝に、出土品を重要文化財に指定。昭和51年から石室南側に保存施設を設置し、壁画の修理や定期的な観察を実施した。現地保存期間中は壁画を公開することができないため、模写の制作や写真撮影等が行われ、それらの資料は高松塚古墳壁画の存在と価値を世間に伝え続けた。取合部天井の崩落止め工事等によるカビの大発生、壁画損傷事故等を踏まえて、これ以上の石室内での壁画保存は困難であり、石室ごと壁画を取り出して解体修理を行い、将来的にはカビなどの影響を受けない環境を確保した上で現地に戻す方法が最善の方策とされた。

石室解体修理事業と発掘調査

石室を解体するにあたり、解体実験用石室等を用いての多岐にわたる検証シミュレーションを実施し、様々な分野の専門家が結集した石室解体修理事業は平成19年8月末に完遂された。墳丘から石室を取り出すため、解体修理事業に前後して、墳丘や石室構造および造営方法を明らし、高松塚古墳に関する情報を後世に伝えることを目的とした発掘調査も行われた。発掘調査により、古墳の構築過程、高度な土木・石工技術及び壁画の劣化原因に関する多くの知見と成果が得られる。

保存修理技術の向上

平成19年から仮設修理施設において修理作業が行われ、令和2年に完了した。この修理作業や調査研究で、壁画劣化原因の調査研究、酵素を用いた汚染物の除去をはじめとする様々な手法が開発され、古墳壁画のみならず、今後の文化財保存においても寄与する保存科学的な成果と修理技術の発展が得られた。修理完了後も点検・メンテナンスを定期的に行っており、長期にわたる取組は、修理技術の継承においても一翼を担っている。さらに、定期的な仮設修理施設の作業室の一般公開にて多くの人々が古墳壁画を観覧できるようになった。

高松塚古墳と壁画に関わる課題や謎、未来への挑戦

高松塚古墳と壁画に関わる課題（石室石材を現地に戻して保存するための技術や未確定の壁画の色料等）や未解決の謎（被葬者、切石の役割等）を示すことで、次世代に対して、高松塚古墳壁画への興味を喚起するとともに、守り伝える当事者としての意識を育む。

4 展示展開例

古墳壁画の保存活用に関する検討会 新施設ワーキンググループの委員から参考として示された主な展示展開例は、以下の通り。

①活用を試みたい資料

- ・高松塚古墳壁画発見のきっかけとなった「切石」
- ・版築切り取り
- ・地震痕跡模型
- ・墳丘土層はぎ取り（墳丘の大きさを感じられるよう全体像を示す、石室や棺との関係を表現する）
- ・当時の報道資料

②古墳に関わった人々の追体験

- ・古墳築造・壁画描画体験（版築作業、狭い石室内で絵を描く等）
- ・囲われた石室大の空間での被葬者体験
- ・埋葬儀礼の再現
- ・壁画に描かれた装束の着装体験
- ・古墳壁画発見の追体験（生姜や芋の貯蔵穴から切石を発見）
- ・石室内での写真撮影や模写等

③その他活用を検討したい技術・手法等

- ・AR・VR や生成 AI を含む最先端技術等を活用したインタラクティブなデジタル展示
- ・制作当時の壁画の復元
- ・現代における保存や復元に関わる技術
- ・持って帰れるアクティビティ（漆喰の上に絵を描く体験、切り絵、ぬり絵、オリジナル壁画で石室を再現するペーパークラフト等）

IV その他

1 観覧料

常設展示室及び古墳壁画・石室石材保存管理室への入場については、観覧料を設定する方向で検討する。

2 運営への民間事業者の参画

新施設については、将来にわたり安定的かつ持続可能な運営を図る観点から、民間事業者の知見やノウハウを積極的に活用することを想定している。来館者対応に関わる業務に加え、企画展示コーナーやミュージアムショップ等の運営等、提案を広く受けながら、民間事業者が主体となって担うことができる仕組みとすることで、多様な発想や柔軟な運営手法を取り入れ、来館者の関心やニーズに応じた魅力的なコンテンツの継続的な創出を図る。

V 高松塚古墳関連資料について

(令和8年3月17日現在)

※大学や企業が所蔵している関連資料もあるが、本リストには国をはじめとする行政が収蔵している資料を中心に列記する

主な展示候補となる高松塚古墳関連資料リスト

※一部資料については調査中

種別	分類	資料名	材質	点数	寸法 (mm)	質量 (kg)	概要	現在の 所蔵施設	適合する コンテンツ ※数字は、展 示コンテンツ
高松塚 古墳壁画	石室石材	天井石1	石材	1	W970×D1,830×H630 (W1,320 × D2,180 × H1,050)	1,400	※ () 内寸法はユニット寸法 [国宝] 壁画・余白、盗掘による破損、地震による亀裂	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	天井石2	石材	1	W980×D1,880×H610 (W1,290 × D2,200 × H1,040)	1,530	[国宝] 星宿図南半(天極・東方・南方・西方七宿)、合欠、槌子穴	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	天井石3	石材	1	W970×D1,830×H630 (W1,320 × D2,180 × H1,050)	1,430	[国宝] 星宿図北半(北方七宿)、槌子穴	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	天井石4	石材	1	W1,020×D1,620×H470 (W1,280×D1,870×H950)	1,130	[国宝] 壁画・余白、朱線あり、合欠、槌子穴	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	東壁石1	石材	1	W970×D1,160×H530 (W1,230×D1,780×H980)	825	[国宝] 男子群像、朱線あり、合欠、槌子棒痕跡	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	東壁石2	石材	1	W930×D1,160×H440 (W1,190×D1,780×H910)	655	[国宝] 青龍、日像、合欠	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	東壁石3	石材	1	W890×D1,160×H450 (W1,160×D1,780×H910)	685	[国宝] 女子群像、朱線あり、合欠、槌子棒痕跡	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	西壁石1	石材	1	W1,060×D1,160×H450 (W1,160×D1,780×H900)	840	[国宝] 男子群像、朱線あり、合欠	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	西壁石2	石材	1	W940×D1,160×H450 (W1,300×D1,780×H900)	750	[国宝] 白虎、月像、朱線あり、合欠	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	西壁石3	石材	1	W790×D1,160×H410 (W1,160×D1,780×H900)	515	[国宝] 女子群像、朱線あり、合欠	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	北壁石	石材	1	W1,520×D1,160×H480 (W2,020×D1,430×H940)	1,215	[国宝] 玄武、朱線あり、槌子穴	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	南壁石	石材	1	W1,400×D1,140×H470 (W2,080×D1,270×H950)	835	壁画なし、盗掘痕、槌子穴	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	床石1	石材	1	W900×D1,640×H570 (W1,160 × D1,950+130 × H910)	1,140	壁画なし、合欠、槌子穴に対応する凹み、水銀朱の滴	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	床石2	石材	1	W910×D1,630×H520 (W1,160 × D1,950+130 × H910)	1,100	壁画なし、合欠、槌子棒痕跡	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
	石室石材	床石3	石材	1	W840×D1,660×H510 (W1,160 × D1,950+130 × H910)	1,015	壁画なし、合欠、槌子棒・工具痕跡	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)
石室石材	床石4	石材	1	W960×D1,600×H400 (W1,160 × D1,950+130 × H910)	780	壁画なし、合欠、工具痕跡	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)	
壁画片	オーバーハング剥ぎ取り 片	漆喰	トレイ 27枚	トレイ寸法225×300×50 段ボール4箱で保管		[国宝] 天井、東壁、西壁	文化庁	古墳壁画・石室 石材保存管理室 (観覧区画)	
切石	切石	石材	1	上面：59.0～58.3cm 下面：59.1～58.7cm 厚さ：35cm	189	1969年(昭和44年)、地元住民が古墳の南側に偶然掘った生姜穴の底から発見され、高松塚古墳壁画発見のきっかけとなった 岩石種：流紋岩質凝灰角礫岩。石室の石材と同様の特徴を有する	国立文化財機構	1・2	
複製資料	模写	和紙 /コ ロタ イブ 印刷 /着 色	3			前田青邨総監修、平山郁夫、守屋多々志、近藤千尋、月岡栄貴(1972年10月文化庁より制作依頼) 壁画の色彩や質感を精確に記録するため、昭和48年(1973)8月から翌年3月にかけて、現状模写がおこなわれました。 日本画家の前田青邨を総監修とし、平山郁夫などの著名な日本画家たちが模写を担当しました。 手漉き和紙に原寸大でコロタイプ印刷したモノクロ写真に、漆喰をイメージした胡粉下地をほどこし、仕上げの描き起こし線以外を白、朱、岩緑青、岩群青、黄土、墨の点描で描いています。	国立文化財機構	1・3・4	
複製資料	模写			2,780×1,200mm		【男子群像】月岡 栄貴 つきおか えいき 【白虎】今井 珠泉 いまい しゅせん 【女子群像】平山 郁夫 ひらやま いくお	国立文化財機構	1・3・4	
複製資料	模写			2,780×1,200mm		【男子群像】近藤 千尋 こんどう ちひろ 【青龍】蓮尾 辰雄 はすお たつお 【女子群像】守屋 多々志 もりや ただし	国立文化財機構	1・3・4	
複製資料	模写			1,200×1,260mm		【玄武】若林 卓 わかば やしたく	国立文化財機構	1・3・4	
複製資料	現状模写					総監督：守屋多々志 副監督：今井珠泉 制作：磯野怜子・遠藤俊久・小野浩一・木村孝男・倉島重友・小松崎千砂子・齋藤彰男・篠崎美保子・戸塚和郎・松野秀世・山本真也	高松塚壁画館	1・3・4	
複製資料	一部復元模写					総監督：守屋多々志 副監督：月岡栄貴 制作：今井珠泉・入江正巳・後藤志朗・後藤芳世・近藤千尋・白岩圭介・月岡栄貴・蓮尾辰雄・守屋多々志	高松塚壁画館	1・3・4	

種別	分類	資料名	材質	点数	寸法 (mm)	質量 (kg)	概要	現在の 所蔵施設	適合する コンテンツ ※数字は、展 示コンテンツ
	複製資料	複製陶板	陶板	8	原寸大		東壁男子群像、東壁女子群像、西壁男子群像、西壁女子群像※、東壁青龍・日像、西壁白虎・月像、北壁玄武、天井星宿図の7面を原寸大で再現。画像は発見直後に撮影された写真原版を使用し、当時関西大生として同古墳の発掘調査に参加し、壁画発見の様子を知る森岡秀人氏ら専門家が指導や助言。大塚オーミ陶業株式会社制作。	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 ※は奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵 ※以外は文化庁より貸与	1・3・4
	複製資料	複製陶板	陶板	一式	原寸大		東壁、南壁、西壁、北壁、天井を原寸大で再現。発見直後（2～3日以内）に便利堂が撮影した写真を元に、大塚オーミ陶業株式会社により陶板を制作。立ったまま壁画が観察できるように、壁石を目線まで持ち上げ、南壁を外側に平行移動して設置。	関西大学	
	複製資料	壁画写真	フィルム		127mm×178mm		・昭和47年3月22日、24日に便利堂（写真技師・大八木威男）が撮影 ・5×7カラー、5×7モノクロ ・[カメラ] Sinar、STANDARD 5×7 [レンズ] Schneider-Kreuznach、SUPER-ANGULON90mm [三脚] Quick-Set、TRAVEL※脚を切ったオリジナル仕様 [フィルム] Kodak Panchromatic Separation Negative Film、Type1 5×7in（モノクロ） Kodak EktachromeReversal Color Film、TypeB5×7in 5×7in（カラー）	便利堂	1・3・4
	複製資料	壁画写真	プリント				・昭和47年3月22日、24日に、便利堂（写真技師・大八木威男）が撮影した写真のプリントを、奈良県が発注し、8～9組作成し東京へ送った	所在は不明	1・3・4
	複製資料	壁画写真	複製				便利堂が撮影した写真の原寸大コロタイプ複製	便利堂	1・3・4
	模型	高松塚古墳撮影状況模型		1	石室内寸（幅103.5cm、高さ113.4cm、奥行き265.2cm）と同サイズ		壁画発見時に石室内で壁画撮影をした際の復元模型	便利堂	1・3・4
	乾拓板	乾拓板					令和2年度、10種類の乾拓板を制作。乾拓体験会を開催	国立文化財機構	—
出土資料	棺関係遺物	金銅製透飾金具	銅	1			[重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月17日指定）]	国立文化財機構	2・4
	棺関係遺物	金銅製円形飾金具	銅	6	大：直径48mm		大2、小4 [重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月17日指定）]	国立文化財機構	2・4
	棺関係遺物	金銅製六花文座金具	銅	2			[重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月18日指定）]	国立文化財機構	2・4
	棺関係遺物	銅製座金具	銅	6			大：方形1、小：七～八角形5 [重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月19日指定）]	国立文化財機構	2・4
	棺関係遺物	銅製角釘	銅				[重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月20日指定）]	国立文化財機構	2・4
	棺関係遺物	漆塗木棺破片	木				[重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月21日指定）]	国立文化財機構	2・4
	銀荘唐草大刀金属類	銀荘唐草大刀金属類		9			[重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月22日指定）]	国立文化財機構	2・4
	海獣葡萄鏡	海獣葡萄鏡		1			[重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月23日指定）]	国立文化財機構	2・4
	玉類	ガラス製小玉		936			[重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月24日指定）]	国立文化財機構	2・4
	玉類	ガラス製小玉		2	2.9～3.2mm		・H18・19年度調査出土 ・鮮やかな青色	国立文化財機構	2・4
	玉類	ガラス製小玉		6			[重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月25日指定）]	国立文化財機構	2・4
	玉類	ガラス製小玉 青色		3			高松塚古墳石室内出土遺物（平成16年7月14日発見）	国立文化財機構	2・4
	玉類	琥珀製丸玉		2			[重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月26日指定）]	国立文化財機構	2・4
	土器類	土師器、須恵器、瓦器等					[重要文化財 高松塚古墳出土品（昭和49年4月26日指定）附]	国立文化財機構	2・4
	石材	凝灰岩片		2	食品保存容器 1箱		H18・19年度調査出土	国立文化財機構	2・4
	床面出土微細遺物	金箔・顔料片など		小テンバコ 4箱			H18・20年度調査出土	国立文化財機構	2・4
	土器類	土器・瓦片		木箱 16箱	・瓦1箱 ・土器11箱 +4箱（廃棄も検討） ※木箱：W460×D760×H120		H16、18・19年度調査出土 テンバコ7箱分相当	国立文化財機構	2・4
	木棺片			小テンバコ 2箱				国立文化財機構	2・4
	木棺	木材+ウルシ膜		1	1,940mm×565mm		重要文化財 高松塚古墳出土品	国立文化財機構	2・4
	棺関係遺物	漆塗木棺	木				木簡片や漆膜、銅釘2点がそれに付着するものを含む。 奈良県橿原考古学研究所研究成果第12冊『高松塚古墳』（2011）で22点の破片について詳細報告	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	2・4
	刀装具	銀製倭銀	銀	1	銚頭-銚尻：15.3mm 銚頭：長軸8.5mm、短軸7.5mm 銚足長さ：11.5～10.5mm 銚尻：長軸5.4mm、短軸5.1mm	1.4g	・2点は報告済みで、1点を追加	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	2・4
	刀装具	銀製貴金具（目抜金）	銀	1	長辺9.4mm×短辺7.3mm×幅3.6mm	0.9g	外面に金属光沢が残る	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	2・4
	刀装具	銀象嵌鉄製足金具	銀	2	W約20mm×D23mm×H5mm W約21mm×D22mm×H13mm	6.9g+1.1g 10.7g	錆により大きさはやや不正確	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	2・4
	玉類	ガラス製丸玉		2	・257：径10mm×高さ8.2mm（孔径2.5～2.8mm） ・258：径10.6mm×高さ8.5mm（孔径3mm）	・257：0.58g ・258：0.77g	・257：紺色、1/2欠損 ・258：外面はアイボリーホワイト、内面は黒色 ※「ガラス製丸玉6点」に含まれる可能性がある。	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	2・4
	玉類	ガラス製小玉		254	径2～3.6mm×高さ1.3～3mm（孔径0.8～3mm）	0.01～0.04g	錆浅黄色5点、ボトルグリーン1点、残りは全てティールグリーン。 ※「ガラス製玉936点」に含まれる可能性がある。	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	2・4

種別	分類	資料名	材質	点数	寸法 (mm)	質量 (kg)	概要	現在の 所蔵施設	適合する コンテンツ ※数字は、展 示コンテンツ
	玉類	琥珀製丸玉		2	・255：径15mm×高さ15mm (孔径2mm) ・256：径14mm(推定)×高 さ不明	・255：0.38g ・256：0.14g	・255：極暗褐色、半分のみ残る ・256：暗褐色	奈良県立橿原考 古学研究所附属 博物館	2・4
	土器・陶磁器類	須恵器・土師器・瓦器・ 陶器・磁器の破片		約560			南トレンチ [約40点、約320g] 土師器(細片20点)、須恵器(杯H蓋片1点、甕片10点、細片2点)、土師 皿(細片2点)、瓦器(椀片2点、細片6点) 東第1トレンチ [約180点、3,380g ※下欄「石材」を含む] 土師器(細片91点)、須恵器(壺片1点、甕片34点、細片14点)、瓦器 (椀片5点、細片18点)、瓦質土器(細片1点)、陶器(仏花瓶1点、灯明 受皿2点)、磁器(備前系蓋片2点、同椀片1点、同瓶片1点、瀬戸美濃系椀 片1点、同皿片1点)、瓦(細片4点)、不明1点 東第2トレンチ [約340点、1,790g ※下欄「石材」を含む] 土師器(高杯片1点、細片270点)、須恵器(杯H蓋片2点、蓋片4点、杯H 片2点、杯B片1点、口縁部片5点、甕片26点)、瓦器(細片6点)	奈良県立橿原考 古学研究所附属 博物館	2・4
	石材	榛原石		4			磚状の榛原石片2点(東第1トレンチから出土) 磚状の榛原石片1点、榛原石片1点	奈良県立橿原考 古学研究所附属 博物館	2・4
	金属製品	金箔片	金	多数				奈良県立橿原考 古学研究所附属 博物館	2・4
	金属製品	銅薄片	銅	5	大きいもので1辺5mm			奈良県立橿原考 古学研究所附属 博物館	2・4
	金属製品	銅粒	銅	1	8.5mm×3mm	0.1g		奈良県立橿原考 古学研究所附属 博物館	2・4
	金属製品	銅釘	銅	6	長さ3.5~1.6mm	0.4~1.8g	釘頭をいずれも欠損しており、完形のものはない	奈良県立橿原考 古学研究所附属 博物館	2・4
	人骨	人骨					右距骨1点、骨片 成人男性の可能性が高く、既発見の人骨と同一と考えられる	奈良県立橿原考 古学研究所附属 博物館	2・4
	床面出土微細遺物	金箔・顔料片など		一式				橿原考古学研究所	2・4
	想定復元品	高松塚古墳漆塗木棺およ び棺台(再現品)		一式	棺蓋：長さ2040mm×幅 620mm×垂直面高152mm 棺身：長さ1995mm×幅 580mm×高さ404mm 棺台：長さ2170mm×幅 660mm×高さ172mm			奈良県立橿原考 古学研究所附属 博物館	2・4
古墳建造 の様子を 伝える資 料	墳丘土層はぎ取り	①上段調査区東西畦南面	土層	1	8,740mm×2,940mm		分割してパネル化	国立文化財機構	2・4
	墳丘土層はぎ取り	②下段調査区東西畦南面	土層	1	4,240mm×2,840mm				2・4
	墳丘土層はぎ取り	③下段調査区東西畦南面 床石周囲	土層	1	4,240mm×1,145mm		分割してパネル化(②③接合)	国立文化財機構	2・4
	墳丘土層はぎ取り	④上段調査区東西畦北面	土層	1	9,810mm×2,940mm		分割してパネル化	国立文化財機構	2・4
	墳丘土層はぎ取り	⑤下段調査区東西畦北面	土層	1	4,240mm×2,840mm		分割してパネル化	国立文化財機構	2・4
	墳丘土層はぎ取り	⑥上段調査区南北畦西面	土層	1	9,130mm×2,940mm		分割してパネル化	国立文化財機構	2・4
	墳丘土層はぎ取り	⑦下段調査区南北畦西面	土層	1	5,040mm×2,840mm		分割してパネル化	国立文化財機構	2・4
	墳丘土層はぎ取り	⑧下段調査区南北畦西面 床石周囲	土層	1	5,040mm×890mm		分割してパネル化	国立文化財機構	2・4
	墳丘土層はぎ取り	⑨上段調査区南北畦東面	土層	2	5,340mm×2,940mm 3,420mm×2,940mm		分割してパネル化	国立文化財機構	2・4
	墳丘土層はぎ取り	⑩下段調査区南北畦東面	土層	1	5,040mm×2,840mm		分割してパネル化	国立文化財機構	2・4
	墳丘土層はぎ取り	⑪下段調査区南北畦東面 床石周囲	土層	1	5,040mm×890mm		分割してパネル化	国立文化財機構	2・4
	墳丘土層はぎ取り	⑫機械室脇はぎ取り	土層				詳細不明	国立文化財機構	2・4
	上段調査区版築柱 状切り取り		土層	1	W1,300mm×D1,100mm× H3,000mm		鉄骨とウレタンで固定 石室構築と一体的に施された第一次墳丘(下位版築)の一部(土層観察用 の畦)を柱状(幅1m、奥行0.7m、高さ2.5m)に切り取り	国立文化財機構	2・4
	版築切り取り	搗棒痕跡	土	1	400mm×200mm×130mm		展示用資料として台座装着	国立文化財機構	2・4
	版築切り取り	搗棒痕跡	土	1	400mm×80mm×130mm		展示用資料として台座装着	国立文化財機構	2・4
	版築切り取り	ムシロ目痕跡	土	1	350mm×230mm×120mm		展示用資料として台座装着	国立文化財機構	2・4
	版築切り取り	ムシロ目痕跡	土	1	150mm×150mm×110mm		展示用資料として台座装着	国立文化財機構	2・4
版築切り取り	版築ブロック資料	土	300箱	テンバコ寸法 440×600×H75/150/225		搗棒痕跡、ムシロ目痕跡、凝灰岩粉末等をとどめるもののサンプル 遺物保管用コンテナ約300箱	国立文化財機構	2・4	
地震痕跡模型	①北西区上面	樹脂 土	1	3,200mm×2,900mm× 最大高1,250mm			国立文化財機構	2・4	

種別	分類	資料名	材質	点数	寸法 (mm)	質量 (kg)	概要	現在の 所蔵施設	適合する コンテンツ ※数字は、展 示コンテンツ
	地震痕跡模型	②北東区上面	樹脂 土	1	3,300mm×2,350mm× 最大高900mm			国立文化財機構	2・4
	地震痕跡模型	③北西区下層	樹脂 土	1	3,200mm×2,800mm× 最大高870mm			国立文化財機構	2・4
	地震痕跡模型	④北東区下層	樹脂 土	1	3,300mm×2,500mm× 最大高800mm			国立文化財機構	2・4
	地震痕跡模型	⑤南西区下層	樹脂 土	1	3,200mm×2,300mm× 最大高850mm			国立文化財機構	2・4
	地震痕跡模型	⑥南東区下層	樹脂 土	1	3,200mm×3,470mm× 最大高900mm		⑤⑥接合	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	①南壁石一西壁石1間	漆喰	1	1,250mm×380mm×300mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	②南壁石一東壁石1間	漆喰	1	1,250mm×300mm×280mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	③北壁石一西壁石3間	漆喰	1	1,250mm×420mm×250mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	④北壁石一東壁石3間	漆喰	1	1,250mm×300mm×280mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	⑤西壁石2-3間	漆喰	1	1,150mm×320mm×170mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	⑥東壁石1-2間	漆喰	1	1,150mm×230mm×210mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	⑦東壁石2-3間	漆喰	1	1,150mm×260mm×180mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	⑧天井石1-2間東側面	漆喰	1	950mm×700mm×270mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	⑨天井石2-3間上面	漆喰	1	1,850mm×350mm×120mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	⑩天井石3-4間上面	漆喰	1	1,850mm×200mm×280mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	⑪天井石3-4間東側面	漆喰	1	300mm×350mm×210mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	⑫天井石3-4間西側面	漆喰	1	420mm×600mm×220mm		接合復元資料・台座装着	国立文化財機構	2・4
	目地漆喰	目地漆喰(非接合資料)	漆喰	80箱	テンバコ寸法 440×600×H75/150/225		遺物保管用コンテナ約80箱	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	①SX220	土	1	350mm×170mm×380mm		台座装着、上下2段接合・分離可	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	②SX221 上段	土	1	350mm×180mm×280mm		台座装着	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	③SX222 上段	土	1	260mm×150mm×140mm		台座装着	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	④SX225	土	1	240mm×120mm×190mm		台座装着	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	⑤SX227	土	1	230mm×150mm×190mm		台座装着	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	・SX221 下段	土	1	170mm×900mm×180mm		台座装着(横置き)	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	・SX222 下段	土	1	180mm×170mm×200mm		台座装着	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	・SX223 上段	土	1	280mm×140mm×150mm		台座装着	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	・SX223 下段	土	1	170mm×170mm×150mm		台座装着	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	・SX224 上段	土	1	230mm×120mm×100mm		台座装着(正立)	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	・SX224 下段	土	1	180mm×180mm×120mm		台座装着(正立)	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	・SX226 上段	土	1	230mm×150mm×140mm		台座装着(正立)	国立文化財機構	2・4
	水準杭痕跡	・SX226 下段	土	1	280mm×270mm×180mm		台座装着(正立)	国立文化財機構	2・4
データ等	三次元CG	発掘調査区と仮整備状況を統合した三次元モデル					令和2年度に完成させた発掘調査区及び遺構面の三次元モデルに、仮整備墳丘の三次元モデルを統合。地下遺構と仮整備面との関係の視認が可能。	国立文化財機構	2・4
	三次元CG	高松塚古墳石室の復元モデル					壁画修理後に撮影した画像を石室石材の三次元モデルに貼り付けた。VRデータ上で書く石材を古墳現地にあった本来の位置関係で再構築。	国立文化財機構	2・4
	三次元CG	平成18・19年度発掘調査区三次元復元モデル						国立文化財機構	2・4
	三次元モデル	石材三次元データ					・平成17年度：石室内部の三次元レーザースキャンニング ・平成18・19年度：石室解体事業に伴い、三次元レーザースキャンニング・写真測量により、石室外部・各遺構面の記録 ・平成20・21年度：古墳南側・墓道部の記録	国立文化財機構	2・4
	三次元モデル	刀装具					青金、石突、山形金物、露金物、留鉋、俵鉋、山形金物釘	国立文化財機構	2・4
	三次元モデル	①壁画発見時の墳丘と石室・壁画(簡易覆屋)						国立文化財機構	2・4
	三次元モデル	②石室解体前の墳丘と石室・壁画(保存施設と仮設覆屋)						国立文化財機構	2・4
	三次元モデル	④仮整備墳丘下の発掘時の調査区・遺構面+修理後石室・壁画(仮想)						国立文化財機構	2・4
	三次元モデル	⑤築造当時の古墳・石室・壁画・棺・周辺地形再現モデル						国立文化財機構	2・4
	三次元モデル	⑥関連古墳三次元モデル						国立文化財機構	2・3・4
	動画・コンテンツ	①古墳構築過程再現動画						国立文化財機構	2・3・4
	動画・コンテンツ	②古墳構築過程操作型コンテンツ						国立文化財機構	2・3・4
	動画・コンテンツ	③石材三次元データ解体過程再現動画						国立文化財機構	2・3・4
	VR映像	高松塚古墳壁画の発見時・解体前・修理後のVR					壁画保存環境の時系列上の変化、および仮整備墳丘下に石室・修理壁画を設置した状況をシミュレーション的にモデル化した	国立文化財機構	2・3・4
	VR映像	①現況VR					飛鳥の主要関連古墳の基礎データを視聴 → 現地訪問の足がかりに ※現地で古墳に投影するかたちでより詳細なVR視聴	国立文化財機構	2・3・4
	VR映像	②壁画発見時および現地管理時VR					壁画が現地にあったときの状況を追体験 ※現地で古墳に投影するかたちでより詳細なVR視聴	国立文化財機構	1・2・3・4
	VR映像	③築造当時VR					古墳当時の飛鳥のイメージを追体験 ※現地で古墳に投影するかたちでより詳細なVR視聴	国立文化財機構	1・2・3・4
	映像資料	国宝高松塚古墳壁画 石室解体ドキュメント 石材の取り上げ作業の概要					奈良文化財研究所で保管していた、高松塚古墳石室解体事業時に撮影した映像資料のアーカイブ化	国立文化財機構	2・3・4

種別	分類	資料名	材質	点数	寸法 (mm)	質量 (kg)	概要	現在の 所蔵施設	適合する コンテンツ ※数字は、展 示コンテンツ
	映像資料	国宝高松塚古墳壁画 石室 解体ドキュメント 天井石4の取り上げ					奈良文化財研究所で保管していた、高松塚古墳石室解体事業時に撮影した 映像資料のアーカイブ化	国立文化財機構	2・3・4
	映像資料	昭和48年高松塚古墳調査 時の8mm映像					昭和48年10月の高松塚古墳の現地調査等の模様を記録。昭和49年8月に行 われた保存施設設置工事に伴う事前発掘調査の様子が含まれる（総撮影時 間：約31分） ○石室（盗掘孔）の開封 ○イタリア専門家の調査 ○石室閉封（以上昭和48年10月） ○事前発掘調査（昭和49年8月） 猪熊兼勝氏（京都橋大学名誉教授、古墳壁画保存活用検討会委員）をはじ めとする、当時の奈良国立文化財研究所員により撮影されたものと考えら れる	国立文化財機構	1・2・3・4
	記録動画	石室解体事業／①ナレー ション入り記録動画					35分	国立文化財機構	2・3・4
	記録動画	石室解体事業／②記録動 画					作業ごとに各3分程度、総時間3時間	国立文化財機構	2・3・4
	記録動画	石室解体事業／②全記録 動画					総撮影時間270時間	国立文化財機構	2・3・4
	記録動画	石室解体事業／③石室解 体班の撮影動画					解体作業を間近で撮影 →近年の受託でアーカイブ化	国立文化財機構	2・3・4
	フォトマップ資料	高松塚古墳壁画					平成17年12月3D計測、平成18年8-9月フォトマップ撮影。 フォトマップデータを元に、ブルーレイハイビジョン動画を制作	国立文化財機構	2・3・4
	想定復元CG	木棺と棺台の想定復元CG					杉板に布を着せた上で表面を黒漆で覆った漆塗木棺で、内面は下地として 「鉛白」を塗った上で朱（水銀朱）塗り。 底板は長さ約199.5cm、幅約58cm、厚さ約1.4~1.6cmで、底板から銅釘を 打ち込んで小口板、側板各2枚を接合。 木棺は、長さ約217cm、幅約66cm、高さ17cmの棺台上に置かれた。	作成：奈良県立 橿原考古学研 究所、多摩美術大 学	2・3・4
壁画発見 から現在 に至るス トーリー やエビ ソード	現地保存時の資料	（写真、映像、調査デー タ、新聞記事・映像、関 係者の証言等）						文化庁他	2・4
	高松塚古墳発掘調 査の資料	（写真、映像、調査デー タ、作業に使用した機 器・道具類、新聞記事・ 映像、関係者の証言等）					ディスクで保存している	国立文化財機構	2・4
	検討経緯	保存対策や修理に関する 検討経緯の資料					高松塚古墳・キトラ古墳関係の検討会等 （WEBサイトで公開） https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaito/takamatsu_kitora/index.html	国立文化財機構	1・2・3・4
	調査や修理に関す る資料	（調査研究データ、道 具・試料等）						国立文化財機構	1・2・3・4
	高松塚古墳発掘調 査の資料	解体時の治具・オクトパ ス型		1	幅268cm×奥行140cm、高さ 110cm		・石室解体の際、石材を吊り上げるためにタダノが開発した専用の機材	国立文化財機構	4
	高松塚古墳発掘調 査の資料	解体時の治具・コンブ レッサ		2	・黄色：幅720mm×奥行 300mm×高さ490mm ・緑色：幅390mm×奥行 200mm×高さ530mm			国立文化財機構	4
	高松塚古墳発掘調 査の資料	解体時の治具・門型1		1	幅240cm×奥行64cm、高さ140 cm			国立文化財機構	4
	高松塚古墳発掘調 査の資料	解体時の治具・門型2		1	幅2,130mm×奥行640mm×高 さ1,400mm			国立文化財機構	4
	高松塚古墳発掘調 査の資料	解体時の治具・L型1		1	幅1,290mm×奥行840mm×高 さ1,780mm			国立文化財機構	4
	高松塚古墳発掘調 査の資料	解体時の治具・L型2		1	幅1,330mm×奥行790mm×高 さ1,650mm			国立文化財機構	4
高松塚古墳発掘調 査の資料	解体時の治具・オクトパ ス型 模型		1式	幅450mm×奥行350mm× 高さ200mm		模型 1 / 6	国立文化財機構	4	
ムシ類	クモ・ムカデ・ハサミム シなど		テンバコ 2箱				・H18・19年度調査捕獲 ・液浸標本（ホルマリン）	国立文化財機構	4
壁画保管器財	盗掘孔プロテクター	樹脂 製	1式				H18・19年度調査時取り外し 3~4分割してビニール袋で保管	国立文化財機構	4